

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	邦楽
----	------	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	かぶしきがいしゃとうきょうこんさいつ 株式会社東京コンサーツ	団体ウェブサイトURL	https://www.tokyo-concerts.co.jp/
代表者職・氏名	代表取締役 浅野紀子		
制作団体所在地	〒 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 AVACOビル2F	最寄り駅(バス停)	早稲田駅/西早稲田駅
電話番号	03-3200-9755		
ふりがな 公演団体名	いっぽんしゃだんほうじん れいがくしゃ 一般社団法人伶楽舎	団体ウェブサイトURL	http://reigakusha.com/home/
代表者職・氏名	代表理事 八百谷啓人		
公演団体所在地	〒 160-0012 東京都新宿区南元町19-2 千日谷会堂内	最寄り駅(バス停)	信濃町
制作団体 設立年月	1969年3月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役社長:浅野紀子 取締役:久保木英紀 相談役:垣ヶ原靖博 監査役:尚邦男	スタッフ:一石鉄哉、斉藤智華子、水町 香、浅野 剛、伊藤あみか、鬨目幸司、西村聡美、村石政昭、市村貴絵、豊永泰子、滝沢優子	
事務体制 (専任担当の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名	西村聡美
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	村石政昭

<p>制作団体沿革</p>	<p>昭和44年創立。以後、作曲家・音楽家のマネジメント・演奏会の企画制作を行う。 歴代の所属アーティスト:武満徹、石井眞木、松村禎三、三善晃(以上作曲)、岩城宏之、若杉弘(以上指揮) 他 現在の所属アーティスト:湯浅譲二、一柳慧、池辺晋一郎、新実徳英、猿谷紀郎、権代敦彦、望月京、杉山洋一、原田敬子、金子仁美、伊左治直、岸野末利加、藪田翔一(以上作曲家)、伶楽舎(雅楽)、松居直美(オルガン)、篠崎史子/木村茉莉/篠崎和子(ハープ)、青柳いづみこ(ピアノ)、安江佐和子(打楽器)、伊藤亜美(ヴァイオリン)、山澤慧(チェロ)、藤元高輝(ギター)、松井慶太/伊藤翔(指揮)、大石将紀(サクソ)、吉村七重(箏)、俵万智(歌人)、堤春恵(劇作家)他 制作公演:サントリーホールサマーフェスティバル(1988～)、東日本鉄道文化財団主催駅コンサート、旧奏楽堂日本歌曲コンクール、個人のリサイタル等 2016年にはコンサート・練習スペースである「トーキョーコンサーツ・ラボ」をオープンし、会場の運営業務・自主制作の公演事業も行っている。</p>				
<p>学校等における公演実績</p>	<p>本事業以外における伶楽舎の実績(ワークショップのみも含む) 令和4年度(予定):北区立王子第二小学校、北区立稲付中学校、豊田市立崇化館中学校、江戸川区立大杉小学校、江戸川区立篠崎第四小学校、杉並区立大宮小学校、小平市立小平第十四小学校、東京都立城南特別支援学校、武蔵野市立大野田小学校、新宿区立大久保小学校 令和3年度: 東大和市立第五小学校、品川区立鮫浜小学校、東京学芸大学付属世田谷小学校、足立区立江北桜中学校、港区立南山小学校、港区立青南小学校、多摩市立南鶴牧小学校、新宿区立大久保小学校 令和2年度: 昭和音楽大学、大田区立志茂田小学校、新宿区立大久保小学校、多摩市立南鶴巻小学校、武蔵野市立井之頭小学校、渋谷区立笹塚小学校、小平市立小平第七小学校、荒川区立第六瑞光小学校 平成31年度: 東邦音楽大学附属東邦中学校・高等学校、東久留米市立第二小学校、青梅市立成木小学校、東星学園中学校、青ヶ島村立青ヶ島中学校、北区立稲付中学校、北区立浮間中学校、北区立十条富士見中学校、板橋区立桜川中学校、板橋区立上板橋第三中学校 他</p>				
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>本事業における伶楽舎の実績 令和4年度:大阪府立思斉支援学校 平成31年度:香川県立善通寺養護学校 平成30年度:島根県立益田養護学校 平成29年度:港区港南中学校(特別支援学級)平成27年度:北海道八雲養護学校、北海道白糠養護学校、北海道旭川養護学校、平成24年度:大阪府立刀根山支援学校 平成22年度:福井県立福井東養護学校 本事業以外における実績 平成31年度:東京都立臨海青海特別支援学校</p>				
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>			
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/piCVrT2ER9g https://youtu.be/8SZgc3in_OA WS : https://youtu.be/iMOfmxVtJ4</p>			
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td>ID:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PW:</td> <td></td> </tr> </table>	ID:		PW:
ID:					
PW:					

公演・ワークショップの内容

【公演団体名

一般社団法人伶楽舎

】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	「伶楽舎 子どものための雅楽コンサート」			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>■第1部 雅楽ってなあに？ 雅楽古典曲 管絃「平調音取」「越天楽」、「陪臚」(中学校のみ) 雅楽古典曲 舞楽「胡飲酒」 各学校の校歌[雅楽編曲版](小・中学校)、わらべうた(小学校のみ)</p> <p>■第2部 日本昔ばなしと雅楽 小学校＝語り付き創作雅楽作品 昔ばなしと雅楽「ポン太と神鳴りさま」(芝祐靖作曲・脚本) 中学校＝語り付き創作雅楽作品 雅楽童話「カラ坊風に乗る」(芝祐靖作曲・脚本)</p>			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	「ポン太と神鳴りさま」「カラ坊風に乗る」
	該当事項がある場合	権利者名 芝祐靖 (ブルーシート)	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済
演目概要	<p>■第1部 雅楽ってなあに？(45分) ①雅楽の楽器の音をきいてみよう(楽器紹介)②唱歌(しょうが)で「越天楽(えてんらく)」をうたってみよう③演奏をきいてみよう④舞楽をみよう⑤雅楽で他の曲もきいてみよう 以上の5つのコーナーを通して、日本の伝統音楽「雅楽」がどのようなものかを知ってもらいます。楽器の名前や特徴を覚え、雅楽の代表的な「越天楽」のメロディーを覚えます。雅楽の勉強は「唱歌」を歌うことから始める、という雅楽独特の習得法も知ってもらいます。豪華な装束や面をつけた舞楽の動きの特徴を覚えてもらいます。</p> <p>■休憩(5-10分)</p> <p>■第2部 日本昔ばなしと雅楽(30分) 「ポン太と神鳴りさま」＝主人公が雲の上で雷さまに会う、というストーリー。 「カラ坊風に乗る」＝カラ傘作りの得意なカラ坊。傘を広げてびゅーっと飛んでみると…</p>			
演目選択理由	<p>■第1部 管絃の「越天楽」は、最もよく知られた雅楽古典曲で、小中学校の教科書にも取り入れられていることから選曲。初めて雅楽を聴く人に一番に知ってもらいたい曲。中学校公演では「越天楽」以外の曲も知ってもらうため、「越天楽」との違いが分かりやすい「陪臚」(ばいろう)も取り上げる。現代と古典との距離感を少しでも縮め雅楽に親しみを感じてもらうため、また、雅楽楽器の可能性を知ってもらうため、子どもたちがよく知っている校歌を雅楽楽器で演奏する。舞楽は動きのある一人舞を取り上げる。これまで「還城楽」「陵王」「胡飲酒」を上演しており、今年度は、とりわけストーリーが明瞭で動きがダイナミックな「胡飲酒」を上演する。</p> <p>■第2部 雅楽の様式化された曲調やテンポは、現代の子どもたちが日常接している音楽とはかなり異なっているため、長時間、古典だけを聴くのでは飽きてしまう。そこで、第2部では物語の展開を楽しみながら、知らず知らずのうちに雅楽の響きに親しむことができるように創られた特別な雅楽作品を上演する。芝祐靖脚本、作曲「ポン太と神鳴りさま」は、古典の響きをベースに、効果音の全てまで雅楽楽器で表現した作品で、これまで全国各地、海外の小中学校でも上演した子供のための雅楽の傑作。子どもだけでなく雅楽を初めて聴く大人(保護者)にも雅楽入門に適した作品。中学生の公演では、芝祐靖脚本、作曲「カラ坊風に乗る」を取り上げる。本作品は伶楽舎が長年扱ってきたレパートリーのひとつであり、雅楽の楽器の魅力ひとつひとつを引き出しながら、物語の情景を音楽によって的確に表現されているため、雅楽の響きを身近に楽しむことができます。</p>			
児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態	<p>●ワークショップでは、洋楽で使われる五線譜ではなく雅楽の縦書きの楽譜を見ながら、雅楽の楽器の伝統的な習得法である「唱歌」を、拍子を取りながら一緒に歌う。雅楽のリズムパターンや打ち方を知るために打楽器の打ち方を指導者の動作を真似て一緒に行う。舞楽の舞の振付の1つか2つを実際に身体を動かして覚え、舞楽の舞の特徴を知る。管楽器3種と打楽器3種を実際の楽器で体験する。 (コロナ禍でなければ、管楽器3種についても実際の楽器で体験を行っていたが、現在は、歌、打楽器と舞のみとしている。)</p> <p>●本公演では、ワークショップで学んだ「唱歌」を復習し、「越天楽」のメロディーをしっかりと覚える。ワークショップで打楽器を体験した児童生徒の代表者が舞台にあがって、「越天楽」の演奏に参加する。わらべうたや校歌を雅楽楽器の伴奏で歌う。</p>			
出演者	<p>笙3、箏3、龍笛3、琵琶2、箏2、羯鼓、太鼓、鉦鼓、舞人、語り 計18名 【出演予定メンバー】伊崎善之、石川 高、五月女愛、笹本武志、野野護元、北村茉莉子、田口和美、鈴木絵理、谷内信一、田淵勝彦、角田眞美、東野珠実、中村華子、中村仁美、野田美香、平井裕子、三浦礼美、宮丸直子、村岡健一郎、國本淑恵</p>			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 18 名	運搬	積載量: 0.7 t	
	スタッフ: 2 名		車長: 4.7 m	
	合計: 20 名		台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無		前日仕込み所要時間		0		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出			
	10:00	10:00-12:00		13:30-15:00	5-10分	15:00-16:00	16時00分			

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	20日	15日	14日	15日	14日	
	11月	12月	1月	計	118日	
	15日	10日	15日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	3
		鑑賞人数目安	



公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)



※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	100名程度 (楽器体験可能人数は100名程度ですが調整可能)
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>●全員を対象とした解説と体験 ①雅楽の歴史を短く説明。楽器について説明する。 ②雅楽の学習の基本である「唱歌」のやり方を体験する。 ③打楽器の打ち方を指導者の動作を真似てやってみる。 ④舞の所作を体験する。 ●グループに分かれての体験 ⑤管楽器(笙・箏・龍笛)と打楽器(鞆鼓・太鼓・鉦鼓)のグループごとに楽器を体験する(楽器数に限りがあるため、体験できる人数は100名程度。ただし、他の児童生徒にも分かるように、皆に見せながら指導する)※コロナ禍においては打楽器のみの体験としている。 ⑥他の児童生徒の唱歌に合わせて、打楽器体験の代表者が打楽器を演奏する。</p> <p>雅楽は、現代の子どもたちになじみの少ないジャンルであることから、まずは全員に向けて、雅楽の歴史や楽器の形・素材・響きについて説明する。情報量は小学校と中学校では多少異なるが、一方的な講義にならないよう、楽器の持ち方や演奏の仕方を説明する時には、子どもたちに真似をしてもらう。子どもたちが身体を動かす、声を出す、といった「動作」を説明の間に取り入れて、飽きさせない工夫をしている。楽器体験では、ただ音を出すのではなく、雅楽の作法も同時に教える。箏や龍笛は大人でも音を出すのが難しい楽器であるが、音が出た時の喜びを感じ、上手に演奏できるようになるまでには修練が必要であることも理解してもらいたい。</p> <p>特別支援学校での実施においても基本的には一般校と同じプログラムを実施するが、ワークショップの楽器体験では、子どもたちの状況に応じて、通常床に座って演奏する打楽器を子どもたちの高さまで持ち上げて叩いてもらう、などの工夫をしている。舞の体験も、先生と相談しながら、それぞれの状態でできる範囲で参加してもらっている。</p>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>1000年以上もの間、伝統芸能として日本の文化に息づいてきた雅楽であるが、一方で、意識してその音楽に触れる機会は少ない。このワークショップでは、実際の演奏だけでなく、本番で使用する楽器を用いた演奏体験や舞の動作の模倣をつうじて、耳だけでなく、身体をとおして音楽全体に接することにより、西洋の音楽とはまた違った雅楽の音の響きや旋律に親しみ、子どもたちがより能動的に雅楽を聴くことができるための環境づくりを目指す。また、このワークショップで雅楽というジャンルに興味を持ってもらうことで、雅楽への興味や理解を高め、本公演での鑑賞において積極的に、より自由に雅楽を受け入れてもらうための土台をつくることを目的とする。</p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>特になし</p>		